

I 検討課題と協議経過

1 検討すべき課題と検討の視点について

千葉県教育委員会は、令和4年3月に、今後10年間の県立高校改革に関する基本的な考え方を示す「県立高校改革推進プラン」を策定し、生徒の多様なニーズへの対応や、キャリア教育・職業教育の充実など、県立高校の現状と課題を踏まえ、「全ての高校の魅力化と学びの改革」、「キャリア教育と職業教育の充実」「学校間連携」「戦略的な広報」の4点を重点事項として、県立高校の魅力化・特色化を推進することとしました。

本プランでは、県立高校の現状と課題の1つとして、人口の減少を掲げ、郡部と都市部の差について、次のように述べています。

中学校卒業者数は、平成元年以降、全県的に急激に減少してきましたが、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、さらに約6,200人減少することが見込まれています。

特に、第1学区から第3学区までの、いわゆる都市部においても、10年後には約3,000人が減少する見込みとなっています。

また、第4学区から第9学区までの、いわゆる郡部においては、少子化に伴う小規模化が進行するとともに、これまでの再編により、高校が離れて点在している状況にあり、交通の利便性や学校選択の幅において、都市部との差が拡大しています。

千葉県は地域特性が非常に多様であり、まさに「日本の縮図」といえる状況にあります。人口減少が進む県内各地域において、人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう、少子化や地域の状況、私立学校も含めた高校の設置状況等を踏まえた高校の適正配置の在り方について検討する必要があります。

このような状況を踏まえ、それぞれの地域の特性を踏まえた県立高校の在り方について検討する必要があることから、中学校卒業者数が減少する中でも、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高校の学校規模の適正化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置を行うこととし、県立高校の配置について、具体計画の方向を次のように決めました。

○多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。

- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。
- 定時制高校については、学びの機会を保障するとともに、生徒・保護者及び地域のニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討します。
- 通信制高校については、県内唯一の通信制高校である千葉大宮高校を中心に、県内全域の生徒が学ぶことができる体制づくりを検討します。

これらの具体計画の方向に基づいた学校の適正な配置を検討するに当たり、地域関係者の意見を聴くために学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会を、今後は郡部だけでなく都市部においても同様に中学校卒業生数の減少が見込まれることから、県内全域を対象に設置することとしました。

地域協議会では、学校の適正配置はもとより、地域の特性や実状を踏まえ、「将来の子どもたちにとって、この地域の県立高校がどうあるべきか」、「どのような学びがこの地域の子どもたちに必要か」など幅広い視点からさまざまな意見を聴取することを目的としました。

また、「千葉県教育振興基本計画」や「県立高校改革推進プラン」を踏まえ、「地域における県立高校の在り方」、「地域との連携」をキーワードとして、それぞれ具体的に次の点を検討の視点として、議論を深めることとしました。

- ・「地域における県立高校の在り方」では、地域の産業を支える人材を輩出し、担い手育成の拠点となる学校、多様な生徒のニーズに応え、様々な機能を備え地域に貢献する学校について

・「地域との連携」では、企業等の地域の教育力の一層の活用、地域活性化への貢献、市町村や地域との連携・協働等について

以上の検討の視点のもと、令和4年度夷隅地区において地域協議会を設置し、3回の協議を重ねたうえ、本報告として取りまとめました。

なお、夷隅地区における高校の状況ですが、県立高校2校、私立高校2校が所在^{※1}しています。県立高校2校は、全日制普通科1校と全日制総合学科1校です。学校規模^{※2}は、県立高校2校で令和5年度入学生の学級数合計が8学級、平均学級数が4.0学級でした。定員に対する充足率^{※3}は、大多喜高校が79%、大原高校が47%で、両校ともに入学者数が定員を下回っています。

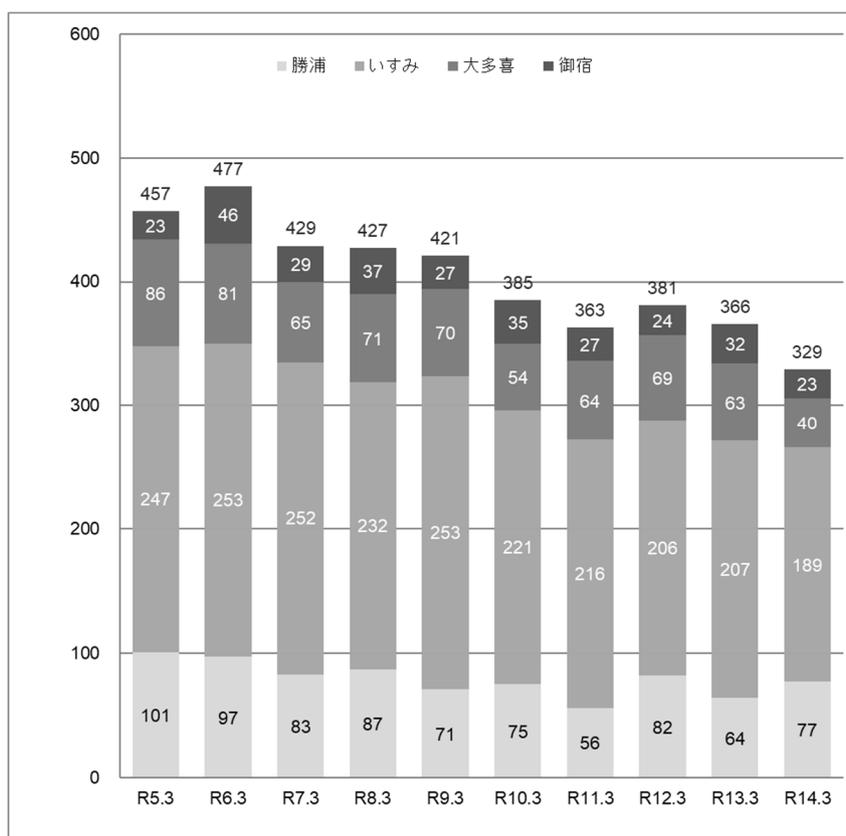
さらに、夷隅地区の中学生の状況^{※4}は、令和4年3月卒業者数は467名でしたが、10年後は推計で329名となり、令和4年3月卒業者数と比較して138名減少します。このような県立高校の学級規模や中学卒業者数の減少傾向から、10年後の学校規模は、県が示す適正規模の維持が危惧される状況にあります。

※1 夷隅地区の県立高校の所在については、資料編「資料1 会議資料」9ページを参照。

※2 夷隅地区の県立高校の学校規模については、資料編「資料1 会議資料」12ページを参照。

※3 夷隅地区の県立高校の充足率については、資料編「資料1 会議資料」12ページを参照。

※4 夷隅地区の中学校卒業者数の状況については、資料編「資料1 会議資料」13～18ページを参照。



夷隅地区の国公立私立中学校卒業者数の推移と見通し

2 協議の経過について

第1回

令和5年1月20日（金）開催（於：大多喜町中央公民館 研修室）

○ 座長選出

【議題】

- 1 地域協議会設置の趣旨
- 2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について
- 3 夷隅地区の県立高校の現状と課題

第2回

令和5年2月16日（木）開催（於：夷隅教育会館 会議室）

【議題】

- 1 夷隅地区の県立高校の在り方について
 - ・普通科（教員基礎コース）
 - ・総合学科（普通、生活福祉、園芸、海洋科学系列）

第3回

令和5年3月16日（木）開催（於：大多喜町中央公民館 研修室）

【議題】

- 1 夷隅地区の県立高校の適正規模・適正配置について
 - ・望ましい学校規模について
 - ・地域との連携及び地域からの支援について
 - ・地域連携協働校について

Ⅱ 協議結果

1 地域協議会開催の趣旨

地域協議会開催の趣旨について説明しました。

※ 詳細は資料編「資料1 会議資料3 ページ（夷隅地区地域協議会設置要綱）」を参照。



2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

次の点について説明しました。

- ・これまでの高校再編について
- ・「県立高校改革推進プラン」の概要
- ・「第1次実施プログラム」の概要

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」4～7 ページを参照。

3 夷隅地区の県立高校の現状と課題

夷隅地区の県立高校の現状と課題として次のような内容を説明しました。

(1) 夷隅地区の県立高校2校の現状

- ・概要、沿革、募集学級数の推移、入試の状況、進路の状況について確認する。
- ・夷隅地区には、全日制普通科1校と、全日制総合学科1校が所在し、進学や就職に向けて学びの選択ができる地区である。
- ・大多喜高校は、明治33年に設置された、令和4年度で創立122年目を迎える全日制普通科高校である。これまで地域と連携した教員養成の学びに取り組み、令和6年度には「教員基礎コース」を設置する。
- ・大原高校は、昭和3年に設置された、令和4年度で創立94年目を迎える全日制総合学科高校である。平成27年度に岬高校、勝浦若潮高校と統合し、大原高校の校名で現在に至る。普通、生活福祉、園芸、海洋科学系列の4つの系列を設置し、キャリア教育に力を入れている。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」8～18 ページ（基礎資料）を参照。

(2) 募集学級数の推移

- ・平成26年度には大多喜高校、大原高校、岬高校、勝浦若潮高校の4校合わせて全日制合計で11学級あったが、全県的な生徒数の減少を受け、募集学級数を減じるとともに再編統合を行い、現在では大多喜高校と大原高校の2校合わせて8学級となっている。
- ・両校ではここ数年定員未充足が続いており、令和5年度入試においては合計118名分の未充足であった。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」8～18 ページ（基礎資料）を参照。

(3) 夷隅地区の中学校卒業生の現状と今後の見通し

- ・平成15年3月に835名だった中学校卒業生数は、令和4年3月には467名と、10年間で368名減少している。減少傾向は今後も続き、10年後には329名まで減少が見込まれている。
- ・第7学区内の県立高校全日制へ進学する割合は85%程度となっており、公立高校進学者のほとんどが学区内の県立高校6校を選んでいる。その一方で、学区内の中学校卒業生の約2割が私立高校へ進学している。
- ・学区内の県立高校6校に進学する割合が現状と同程度のまま推移していくと仮定すると、10年後に学区内の県立高校6校に進む生徒数は約200名である。この数は40人学級に換算すると5クラス程度である。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」8～18ページ（基礎資料）を参照。

<第7学区の県立高校について> 計6校 29学級 () R5学級数

- 普通科 (14) … 長生 (6)、茂原 (4)、大多喜 (4)
- 普通系専門学科 (1) … 長生 (理数1)
- 職業系専門学科 (10) … 茂原樟陽 (農業3・工業3)、一宮商業 (4)
- 総合学科 (4) … 大原 (4)

4 夷隅地区の県立高校の在り方について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○協議会委員の意見

- ・高校の魅力づくりは大切であり、町にとっても重要である。住民や高校生の数が減れば町は衰退する。大多喜高校の魅力が増し、生徒が増えて町が賑やかになってほしい。
- ・色々な経験を少しでもできるように、地域に何ができるか、それが魅力につながるかがポイントになると思う。
- ・地域に高校は残さなければならない。市も第一次産業の担い手不足に悩んでおり、その中で大原高校が展開している教育活動はありがたい存在である。
- ・この2校ではこのようなことが学べるという情報を中学生、その保護者、中学校の先生方に発信し、地元の子は地元で育てる、という考えを広めていっていただきたい。



5 夷隅地区の県立高校の適正規模・適正配置について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○協議会委員の意見

- ・ 望ましい学校規模についての望ましいの主語によって考え方が異なる。
1学級でも学校を残すことは、地域にとって望ましいかもしれないが、実際にそこで学ぶ子どもにとってそれが望ましいかという疑問が生じてくる。
高校生として3年間、部活動や仲間との触れ合いなど、望ましく過ごせることが大事だと思う。
- ・ 学校が残っていれば、規模が小さく、そこへ通う生徒が少なくなっても、その地域に人材を輩出していけると思う。30人学級規模の過疎地特例で学校を残せないか。
- ・ 高校存続のために地元の自治体と県教委が連携し定期代を補助したり、交通の便が悪いところにスクールバスを出したりするなどの取組ができないか。
- ・ 様々な支援をしていることは素晴らしいことだと思うが、公平性には十分配慮する必要がある。公平性を確保しながら、地域も大事にするという色付けをしていくことになると思う。
- ・ 地域連携協働校での連携の仕方については、他市町にある協力校より、当該地域にある中学校と協働する方が適している地域もあるかもしれない。地域の状況に合わせた形態を考えた方が良い。

Ⅲ 今後の検討に向けて

夷隅地区には、県立高校2校が所在し、その学科構成は、普通科及び総合学科となっており、進学にも就職にも対応できる学びとなっています。一方、中学生の状況については、卒業生数が令和4年3月には467名でしたが、10年後には329名となって約3割の減少が見込まれるなど少子化が進んでいます。

また、夷隅地区の産業を見ると、太平洋に面した自然豊かな地域のもと、米や野菜、畜産などの農業や、豊かな水産資源を生かした漁業などが盛んです。また、自然だけではなく、歴史や文化にも触れることができる首都圏有数のリゾート地として、多くの観光客が訪れています。

協議会委員からは、今後の生徒数の減少が見込まれるなかで、このような地域の特色を支え、更に活気のある地域を作るために、高校の在り方や適正規模・適正配置について地元の切実な問題としてとらえ、お互いの立場を越え、熱心に議論していただきました。その中で出されたおもな意見を集約すると次のとおりです。

- 地域の期待に応える魅力ある高校づくりの推進
- 夷隅地区の産業や地域社会を支える学びの更なる進展
- 積極的な情報発信による学校への理解の増進
- 「地元の子は地元で育てる」マインドの醸成
- 子どもの視点による適正規模・適正配置
- 30人学級規模の過疎地特例による高校の設置
- 地元の自治体と県との連携によるスクールバス等、教育環境の整備
- 地元の中学校との連携等、「地域連携協働校」の運営体制の検討

協議会委員の意見を踏まえ、今後の夷隅地区における高校の在り方については、以下の要素に留意し、更に検討を進める必要があると考えます。

- ◎夷隅地区の特色を支える人材育成を主眼に、地域と連携・協働した教育活動を展開する高校
- ◎小・中学校、大学、関係機関、住民の方々など地域の教育力を学校教育に取り込み、地域に愛され、地域とともに歩む高校
- ◎生徒減少期にはあるが、生徒がお互いに切磋琢磨し、学校の活力を失わないための教育環境を考慮した高校

最後に協議委員の皆様には、それぞれの立場から多岐にわたる貴重な意見をいただきましたことに感謝申し上げます。皆様の意見をもとに夷隅地区の子どもたちにとって、より活力のある魅力ある学校づくりを今後も進めてまいります。